

2014年度 近江兄弟社ひかり園 学校評価結果シート

1 近江兄弟社ひかり園の保育・教育目標

・学園訓「地の塩・世の光」の理念のもと、一人ひとりがこの世でなくてはならない存在として生かされていることを知り、世のために尽くす人となるための土台を作ります。
 ・イエス・キリストを模範とする人間教育を通して、「よく見る目、よく聞く耳、よく考える頭、よく働く手足」を育みます。
 ・夢に向かって未来をつくりだす人間となるための基礎を培います。

2 重点的に取り組む目標・計画

(1)遊びから学びの基礎へ、遊びからはたらきへ ～「遊び」を大切にしたい保育(教育)～
 子どもが夢中になっていきいきと遊ぶことは、『生きる力』を育むことに大いにつながります。遊びを通して、工夫したり、悩んだり、納得するまで繰り返すなかで、思考力や想像力が育ち、意思が確立されます。その意思が、学びの基礎となり、「もったこんな風に…」という意欲の土台となります。ひかり園では、一人ひとりが抱く好奇心や探究心を大切に受けとめ、『心をうごかす保育』に努めます。子どもたちは、保育者や友だちと遊ぶ中で、自分と他者との違いを知っていくことで、たくさんの方とつながり合い、葛藤を通して、悩み、考え、やがて理解し合い、『共に生きる』ことを学んでいきます。認め合い、力を合わせることを楽しむ、喜びを味わうまでの道筋を大切に、保育にあたります。

(2)「食」を大切にしたい保育 ～家庭や地域との連携による食育の推進【食育計画】～
 「生きることは食べる」と言われるように「食べる」という営みは、生きる力の源になります。ひかり園では、第二園庭ぶんえもんを中心に、地域の方々のお力を借りながら「育てる・収穫する・調理する・食べる」ことを体験します。「収穫する＝与えられる」ことに気づき、『喜んで(感謝して)いただく心』を育てます。地産地消にこだわり、地域で作られている環境こだわり米、地元産の野菜を積極的に取り入れた給食を提供します。

[2014年度食育計画]

食と健康	①できるだけ多くの種類の食べものや料理を味わう。 ②自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする。
食と人間関係	①自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう。 ②様々な人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ。 ③食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける。
食と文化	①いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく。 ②地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ。 ③食習慣、マナーを身につける。
いのちの育ちと食	①自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう。 ②栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、すべてのいのちを大切にすることを学ぶ。
料理と食	①身近な食材を使って、料理を楽しむ。 ②食事の準備から後片付けまでの食事づくりに自らかわり、味や盛り付けなどを考えたりそれを生活に取り入れようとする。 ③食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気の中で食事を摂る。

3 評価項目の達成および取り組み状況および今後の課題

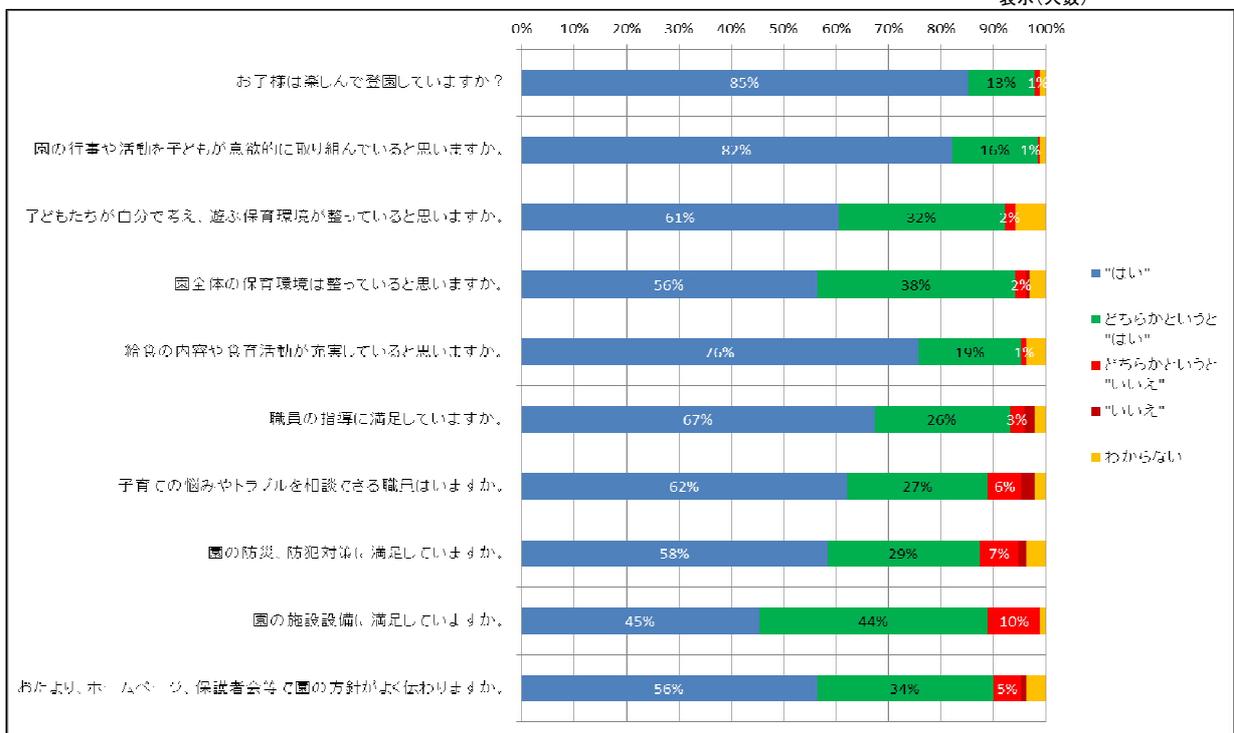
評価項目	取り組み状況	今後の課題
こども園要領を軸に保育課程を策定・実践する。また、個々の発達を踏まえ、教職員間の共通理解をはかり保育に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程に基づき、年間指導計画・月間指導計画を作り、定期的に評価を行い改訂をはかった。 ・一人一人の子どもの成長記録を児童票に記入し、関係する職員が周知できるよう連携している。 ・ケース会議や学年会議を定期的に行うことで、全職員が子どもの様子を把握できるよう努めた。 ・教育の質の向上のために、園内外での研修に参加する機会を積極的に設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有を密にし、課題・検討・決定事項は、職員全員で周知し、内容が伝わるように心がけていく。 ・ケース会議を持ち職員間で共通理解に努めると共に、クラスや学年単位で話し合う時間を確保する。 ・こども園要領に掲げられている保育のねらいを日々の実践につなげる。
子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの年齢に応じた環境を室内外に整え、じっくり遊べる環境づくりに努めている。 ・毎日の掃除を十分に行い、汚れた後もすぐに消毒、掃除をして子ども達の園生活の場の清潔を維持した。 ・子どもの表情、言動、様子などをよく把握し、安心して過ごせるよう常に保育者が配慮した。 ・早期・延長保育への移行に関しては、職員間で子どもの様子をしっかりと伝えて、一日を通して子どもが安心して過ごせるよう心がけている。 ・園庭、地域の公園や、園内の畑で自然に触れ、親しむ機会を持った。 ・保護者会活動に環境美化作業を取り入れ、園庭の清掃、環境整備に協力していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の広さに限りがあるが、囲いを作ったり、コーナーに分けて遊んだりするなど、環境作りにも工夫していきたい。 ・玩具は子どもの成長に合っていないものや傷んでいる物もあるので十分気を付けたり、点検をして取り替えていきたい。 ・子どもの発達段階を考慮して玩具の種類を増やしたり、手作りのおもちゃ等も取り入れ遊びの幅を広げていきたい。 ・地域の自然環境に親しんでいるものの、守り、育てるという点では関わりは薄い。職員が自然環境を守り、育てる研修の機会を設けて子ども達にも提供出来るように工夫していきたい。 ・園の近く何処にどんな樹木があるのかなどを調べて保育に生かしていきたい。
一人一人の子どもへの理解を深め、受容することに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中でも出来るだけ一人一人の言葉に耳を傾け、ゆったりと関わられるよう努めた。 ・乳児クラスにおいては出来る限り家庭に近い環境を整えている。また、月齢に配慮し、一人一人が落ち着いて生活ができるような雰囲気を作っている。 ・個別支援を必要とする子に対しては、担当者を中心としてクラスや園全体で話し合い、その子に合った援助ができるよう心がけた。また保護者とも密に連絡を取り合い情報を交換・共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中で保育の流れを優先して子どもをせかすことがあるが、個人差を配慮してゆったりと接するようになっていきたい。 ・自分の思いがうまく伝えられず葛藤する子ども達へ理解と受容の態度で接していきたい。

評価項目	取組み状況	今後の課題
園の情報を保護者や地域に発信する。また、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 園だより、学年だより、クラスだよりなどの配布、ホームページやブログ、掲示板などを活用し、園生活のねらいや、園やクラスでの子どもの様子を伝えた。 年度末に保護者アンケートを実施し、保護者を通して園運営への意見を伺った。 	アンケートに寄せられた様々な意見を、環境作りや保育内容充実の園の運営や教育活動をより充実させるための参考とした。教職員がチェックリストや保護者アンケートの結果を基に自己評価を行い、計画や取り組みを見直し今後の改善と充実につなげる上での基礎資料ができた。保護者も含めて外部の方々の声を聞くことで自己評価に客観性ももてた。これらの評価を職員への意欲につなげたい。
緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、避難訓練を行い、職員間で話し合い連携に努める。 園外での安全に留意し、携帯電話の携帯、行き先や時間など明記するように心がけた。 危機管理体制やヒヤリハット報告のまとめの冊子等で職員全員の危機管理意識の向上をはかった。 事故防止のため、定期的に遊具や施設内の安全点検を行い改善点は改善できるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や保健担当者会議で学んだ事を全職員が周知徹底されるようにしていきたい。 調理室も衛生管理マニュアルに記されているが清掃出来ない部分があるので、専門業者や稼働していない時間などで実施出来るように検討していきたい。

4 保護者アンケートの結果 実施日 2015年3月

対象者	回収	回収率
211人	190人	90.05%

表示(人数)



5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

認定こども園の運営を開始し2年が経った。年度末に実施した保護者アンケートの結果を基に、園運営を総括、また職員各自が自己評価を行い、計画や取り組みを見直した。園運営の今後の改善と充実につなげる土台ができた。保護者も含めて外部の方々の声を聞く中で評価に客観性ももて、また良い評価は、教職員への意欲につながった。評価から見る課題としては、保護者への対応、園舎・園庭等の環境、地域との交流があげられるが、目標を具体的に設定して、これまで同様意識的に取り組むことで改善をはかりたい。